

| 西暦 | 城主 | 地域の支配者 | 関連出土品 | おもなできごと |
|------|---------------|---|--------------------|---|
| 1565 | 飯尾賢連・乗連・連電 | 今川氏 | かわらけ(灯明皿) 瀬戸美濃天目茶碗 | 1560(永禄三)年 桶狭間の戦い |
| 1570 | 徳川家康 | 徳川氏 | かわらけ(灯明皿) 瀬戸美濃折皿 | 1565(永禄八)年 今川氏真、飯尾連竜を殺害 1568(永禄十一)年 徳川家康、遠江に侵攻 1570(元亀元)年 家康、浜松城築城開始 |
| 1580 | (城代)菅沼定政 | 豊臣氏 | 堀尾期軒丸瓦 | 1572(元亀三)年 三方原の戦い、家康敗北 1578(天正六)年 浜松城修築(天正九年まで) 1579(天正七)年 築山殿と信康を殺害・秀忠誕生 |
| 1590 | 堀尾吉晴・忠氏 | | | 1586(天正十四)年 家康、秀吉の臣下となる 1590(天正十八)年 秀吉、家康に關東移封を命ず |
| 1600 | 松平忠頼 | 徳川氏 (将軍家) | 堀尾期軒平瓦 | 1598(慶長三)年 秀吉没する 1600(慶長五)年 関ヶ原の戦い 1601(慶長六)年 家康、東海道に伝馬制を制定 |
| 1609 | 水野重仲 | | | 1616(元和二)年 家康没する |
| 1619 | 高力忠房 | | | 1619(元和五)年 徳川頼宣、紀伊に移封される 1620(元和六)年 幕府、諸大名に大阪城の修築を命ずる |
| 1638 | 松平乗寿 | | | |
| 1644 | 太田資宗・資次 | | | 1655(明暦元)年 大風雨により、浜松城内に被害 |
| 1678 | 青山宗俊・忠雄 忠重 | | | 1675(延宝三)年 小天竜が彦助堤により締切り 1680(延宝八)年 大風により、浜松城内に被害 |
| 1700 | 本庄(松平)資俊・資訓 | | | 1691(元禄四)年 城内の屋敷で火災 1700(元禄十三)年 城内の屋敷で火災 |
| 1729 | 松平信祝・信復 | | | 1706(宝永三)年 城内の屋敷で火災 1707(宝永四)年 宝永地震(二の丸御殿被災) |
| 1749 | 松平(本庄)資訓・資昌 | | | |
| 1758 | 井上正経・正定 正甫 | | | |
| 1800 | 水野忠邦・忠精 | 1822(文政五)年 鉄門東櫓を修理する | | |
| 1817 | 井上正春・正直 | 1854(安政元)年 安政地震(二の丸御殿被災) | | |
| 1845 | | 1860(万延元)年 天竜川が決壊し、城下に被害 1868(慶応四・明治元)年 戊辰戦争、明治と改元 1873(明治六)年 廃城令 | | |
| 1868 | | 1945(昭和二十)年 浜松大空襲 1948(昭和二三)年 元城小学校二の丸跡地に復興 1950(昭和二五)年 浜松城公園開設 1958(昭和二三)年 復興天守建設 1959(昭和三四)年 天守曲輪・本丸一帯を市史跡指定 2014(平成二六)年 天守門復元 2017(平成二九)年 中部学園開設 | | |

※ 注意事項
 ・新聞やテレビ、ホームページ、月刊物等で現地説明会の様子が紹介される可能性がありますので、あらかじめご了承ください。
 ・SNS やインターネットに写真・動画を掲載する場合は、個人が特定されるような写真や動画の掲載を控えていただくをお願いいたします。

浜松城跡 35 次発掘調査 — 現地説明会資料 —

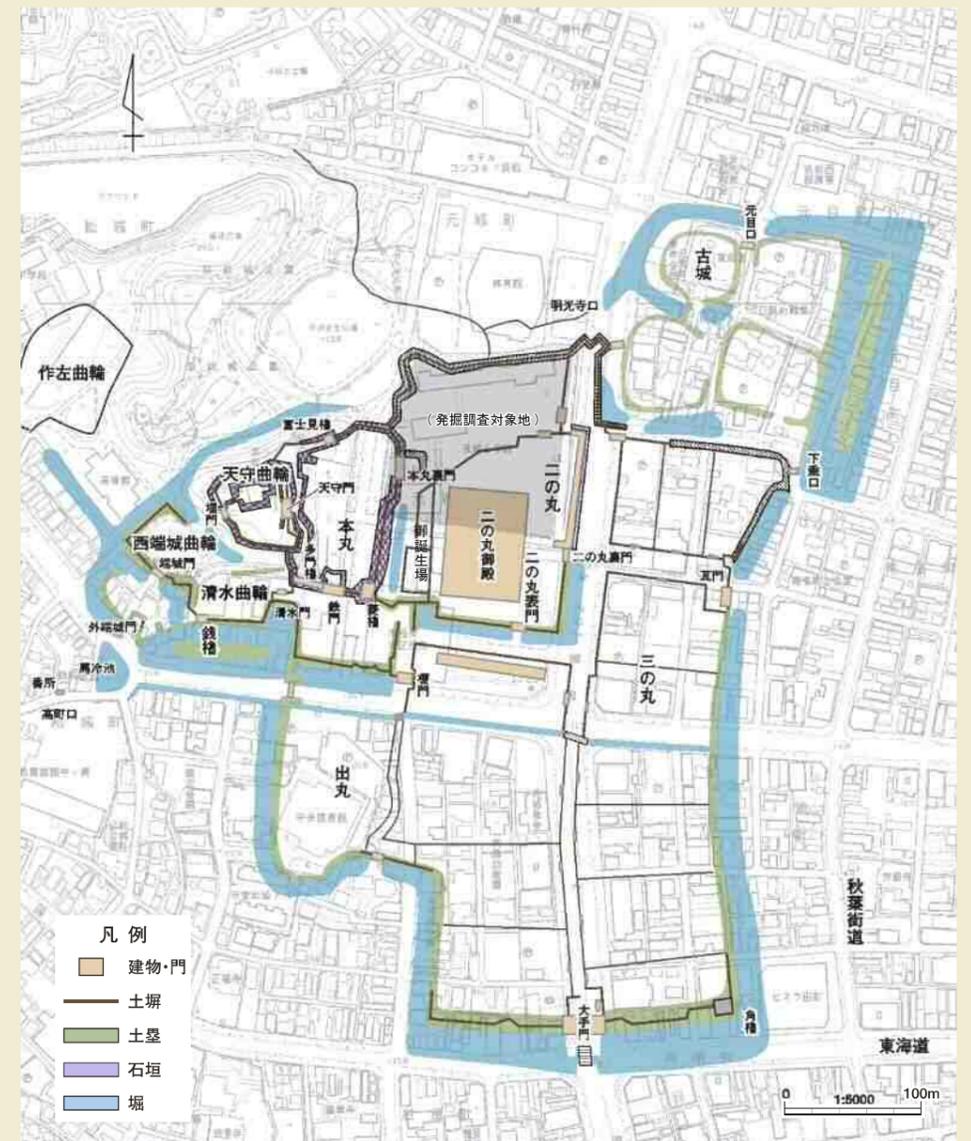
浜松市文化財課

2020.9.26

浜松城は、三方原台地の東縁部にある段丘を利用した平山城です。1570 年、岡崎から浜松へと拠点を移した徳川家康は、今川氏配下の飯尾氏などにより整備された引間城を浜松城と改称し、西側の丘陵部へ拡張・整備を行いました。1590 年、家康の關東移封に伴い豊臣氏家臣の堀尾吉晴が浜松城に入りました。現在の浜松城公園で見られる浜松城の石垣の多くは、堀尾氏により構築されたものとみられます。1600 年、関ヶ原の戦いに家康率いる東軍が勝利し、浜松城は徳川譜代の大名が治めるようになりました。江戸時代、浜松城は浜松藩の拠点として近世城郭へと整備されました。浜松藩主は、交代が多く、9 家 22 代を数えます。いずれも徳川譜代の大名が藩主を務め、各家とも在任期間が 1 代～3 代と短期間でした。浜松城とともに整備された城下町は、現在の浜松市街地の基礎になっています。明治時代になり、1873 年に廃城令が發布されました。この時期には、城内の建物や土地が払い下げられ、市街地化しました。1950 年に浜松城公園が開設、1958 年には復興天守が建築され、2014 年には天守門が復元されました。なお、1959 年に浜松城の天守曲輪と本丸一帯が市史跡に指定されました。

今回の発掘調査は、令和元年度調査に続き、令和 2 年 6 月から発掘調査を実施しています。今回も元城小学校跡地を対象とし、令和元年度調査で確認した石垣や堀などの遺構について、さらに詳細な情報を得ることを目的として行っています。元城小学校跡地は、江戸時代の絵図によると、本丸や御誕生場、二の丸にあたります。

江戸時代の浜松城の二の丸には、藩主が居住や政務を執り行う御殿があったことが絵図から知られ、浜松藩の中核部があった非常に重要な場所です。



浜松城推定復元図

浜松城跡 3 5 次調査の成果

今回の発掘調査では、本丸を囲む堀と石垣の構造や本丸の規模などが確認されました。これまでに戦国時代から江戸時代にかけての浜松城に関連する遺構が広範囲にわたって確認されており、徐々に浜松城の構造が明らかになりつつあります。



◎ 本丸の石垣と堀を確認

本丸北東部隅の石垣を確認しました。検出した石垣は北面で最大6段(1.2m)あります。自然地形に合わせて石垣が構築されていることが認識できます。

天守曲輪等の石垣と特徴が共通しており、堀尾氏が整備した石垣と捉えられます。



◎ 本丸の石垣詳細

今回検出した石垣は、天守台や天守曲輪などの石垣と同様に、主にチャートという石材を用いてつくられています。石材をあまり加工せずに積み上げて、石材と石材の間には小型の石を詰めて平滑な石垣面に仕上げています。

隅角部は、石材の長辺と短辺を交互に積み上げ、短辺の脇には小型の石材を用いています。石垣は1590年代を中心とした時期の特徴を有しているといえます。



◎ 本丸東側の石垣と堀を確認

本丸東側の堀を確認しました。堀の深さは検出面から約4m、幅約10mです。元城小学校跡地南端から北へ約30mのところまで堀が途切れていることを確認しました。江戸時代には、堀が途切れた部分の近傍に本丸裏門があったと想定できます。

堀の東岸には大量の石材が埋もれており、江戸時代の絵図に表現された通り、かつては石垣があったと考えられます。



◎ 二の丸の建物基礎

二の丸内で建物基礎(礎石)を確認しました。二の丸御殿の建物基礎である可能性があります。